

みんなで作る公園づくり

## 基本構想

～久山町総合グラウンド公園ソフトボール場リニューアル～

令和5年3月

糟屋郡久山町



# 目次

1. はじめに	2
2. 公園の現状	3
2-1. 久山町の公園の現状	
2-2. 久山町総合グラウンド	
2-3. 本計画の予定範囲	
3. 公園の基本理念	7
理念1 久山の自然を活かした公園	
理念2 関わりが生まれる公園	
理念3 みんなで見守る公園	
4. 基本構想策定に向けた取組	9
4-1. 子育てつながるプロジェクトチーム	
4-2. 公園づくりワークショップ	
5. リニューアルの方向性	19
5-1. ゾーニング	
5-2. 整備後の公園イメージ	
5-3. 今後の事業の進め方	
6. 公園づくりワークショップを通しての参加者の感想	26
7. おわりに	27

# 1. はじめに

## 構想づくりの背景と目的

久山町は、福岡市に隣接しながらも人口約 9,300 人、蛍の飛び交う清流や田園風景が残る自然豊かな町です。従来より「国土・社会・人間」の 3 つの健康づくりを基本理念として町づくりを進めており、第 4 次総合計画では「だれもが生き生きと暮らせる『健康田園都市』の実現」を目指しています。

近年、我が国は、社会経済情勢の変化やライフスタイルの多様化、人口減少や少子高齢化、核家族化などの家族形態の変化によって、家族での支え合いや、地域における住民同士のつながりが希薄化していますが、本町も例外ではありません。近年の宅地開発等による人口増加に伴い、子育て世代の家庭環境やニーズも多様化し、変化しています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、人と人が交流する機会が減り、育児の孤立化、身体を動かす機会や子どもたちの経験不足も懸念されています。

本町では令和 3 年度より子育てに関する課（福祉課、教育課、健康課）で、これらの課題の解決について話し合いを進め、その一つとして、子育て世代が気軽に集い、つながることのできる場の必要性を感じ、そこから幅広い世代へとつながることで、地域で子育てしやすい風土を醸成することができるのではないかと考えました。

子育て世代だけでなく、幅広い世代の方が気軽に訪れることのできる場として挙げられるのが公園です。公園は、自然に触れ合うことができ、レクリエーション活動や憩いの場としてどの世代も活用できる場です。すなわち「国土・社会・人間」の健康につながる場といえます。

以上のことから、「幅広い世代がつながる場」として公園に着目し、現在利用頻度の少ない久山町総合グラウンド公園内のソフトボール場の有効活用のために、町民と一緒に理想の公園を考えることとしました。

## 2. 公園の現状

### 2-1. 久山町の公園の現状

都市公園には、住民全般の休息、鑑賞、散歩、運動等総合的な利用などを目的とする公園である都市基幹公園と、街区に居住する住民の利用を目的とする公園である住区基幹公園などがあります。

久山町には、都市基幹公園として上久原の久山町総合運動公園及び下久原の久山町総合グラウンドがあります。住区基幹公園としては、各行政区に1つの街区公園があります。

その他、都市生活の安全性及び快適性の確保等を図る緩衝緑地帯として、赤坂緑道と新建川緑道の緑地公園があります。また、住宅開発や道路事業等によって生まれたスペースに、遊具やベンチなどを置いて作られた小さな公園（ポケットパーク(PP)）も町内に10か所程あり、これらの公園のほかに、町内には気軽にショートホールのゴルフが楽しめる久山ケイマンゴルフ場や水遊びができる猪野ダム親水広場、自然の中を散策できるフォレストロードなどが設置されています。

### 2-2. 久山町総合グラウンド

久山町総合グラウンドは、図1のとおり構成されています。

(図1：久山町総合グラウンド航空写真)



公園内のそれぞれの施設は、現在以下のように使われています。

#### 【グラウンド】



約 13,000 m<sup>2</sup>のグラウンドで、主に高齢者のグラウンドゴルフや、中学生・社会人の野球クラブなどに利用されています。

#### 【ソフトボール場】



約 6,100 m<sup>2</sup>のグラウンドで、以前はソフトボール場としての利用がメインでしたが、現在は開放されています。隣には遊具のあるスペースが併設されています。

#### 【駐車場】



グラウンドに隣接した場所及び役場庁舎下の場所に設置され、合計で 74 台駐車可能な駐車場です。

#### 【福岡久山相撲場】



屋根付きの相撲場で、主に子どもの相撲大会等に利用されており、県の相撲連盟事務所と屋内練習場が併設されています。

#### 【その他】

忠霊塔、トイレなどが設置されています。

また久山町総合グラウンドに隣接する環境は、主に以下があげられます。

【久山町役場】



公園の南東側に隣接しています。

【ひさやま保育園杜の郷】



ソフトボール場の南西に隣接する公設民営の認可保育所。園児の散歩コースとして公園を利用しています。

【その他】

公園北西部には下久原地区（月見ヶ丘組合）の住宅地、北東側には民間のゴルフ場久山カントリークラブ、東側には若八幡宮が隣接しています。

## 2-3. 本計画の予定範囲

本計画を予定する範囲は、久山町総合グラウンド東部のソフトボール場、およびそれに隣接する遊具スペース、駐車場などを含めた約 7,100 m<sup>2</sup>とします。

また計画を進めるにあたり、必要が生じた場合は範囲を適宜変更することもあります。

(図 2 : 計画予定地)



Map data ©2023 Google

### 3. 公園の基本理念

本事業は「幅広い世代がつながる場」を作ることで、子育てしやすい風土を醸成していくことを目的としています。そのため、誰もが日常的に訪れたい公園を目指すこととしました。

また、子育てしやすい風土づくりに向けて、本町の豊かな自然を活かしながら「行けば誰かに会えて楽しめる場」「みんなで暮らしを見守れる場」「つながりが生まれ、それが持続する場」が必要だと考えました。

以上のことを踏まえ、本事業における公園の基本理念を「久山の自然を活かした」・「みんなで見守る」・「関わりが生まれる」の3つとしました。

(図3：公園の基本理念)



#### 【理念1】久山の自然を活かした公園

久山町の豊かな自然を活かした公園づくりを目指します。既存の自然環境を壊すことなく、町内の資源を最大限に活用し、地域循環型で持続可能な開発となるよう配慮をします。また、町民がこの公園を利用することで町への愛着を深め、久山で暮らすことを誇らしく思えるような環境づくりを図ります。

##### 【想定される例】

- ・既存樹木を使った自然遊びのできる環境づくり
- ・久山の樹木を使った遊具やベンチづくり
- ・落ち葉や木の実を使った工作活動のできる環境づくり など

##### (イメージ写真)



## 【理念2】関わりが生まれる公園

地域活動に町民が積極的に関わる町の特徴を活かしながら、公園が町民活動の場として積極的に活用され、地区や世代を超えてより活発な関わりを生みだすことを目指します。特に、子育て世代がこの公園に来ることで地域との関わりを持ち、地域に見守られながら安心して子育てができる環境づくりを図ります。また、インクルーシブでユニバーサルなデザインとなるよう十分配慮し、障がいの有無、年齢、性別を超えたすべての町民が安心して利用できる公園づくりをしていきます。

### 【想定される例】

- ・見守りスペースのある遊具広場
- ・マルシェや小規模イベントができる広場
- ・インクルーシブでユニバーサルなデザインに対応した施設 など

(イメージ写真)



## 【理念3】みんなで見守る公園

公園が長く大切に使われ続けるため、本事業は行政主体型でなく町民参加型のプロセスによって実施します。また完成後の維持管理についても、町民が関わり、行政とともに安心安全な公園環境を維持することを目指します。そして、町民発信の活動が生まれ、関わりが広がる公園としていきます。

### 【想定される例】

- ・樹木管理などの公園見守りボランティア
- ・遊具の安全管理に関する町民参加の勉強会の開催
- ・メンテナンスワークショップ など

(イメージ写真)



## 4. 基本構想策定に向けた取組

本事業の特徴は、町民参加型デザインによる公園づくりをすることです。

様々な工程のなかで、ワークショップなどで町民が関わる機会を設け、町民が「自分たちが考えた公園」として愛着を持つことで、完成後も公園の運営やイベント、維持管理などに携わることを目的としています。

(図 4：基本構想のプロセスについて)

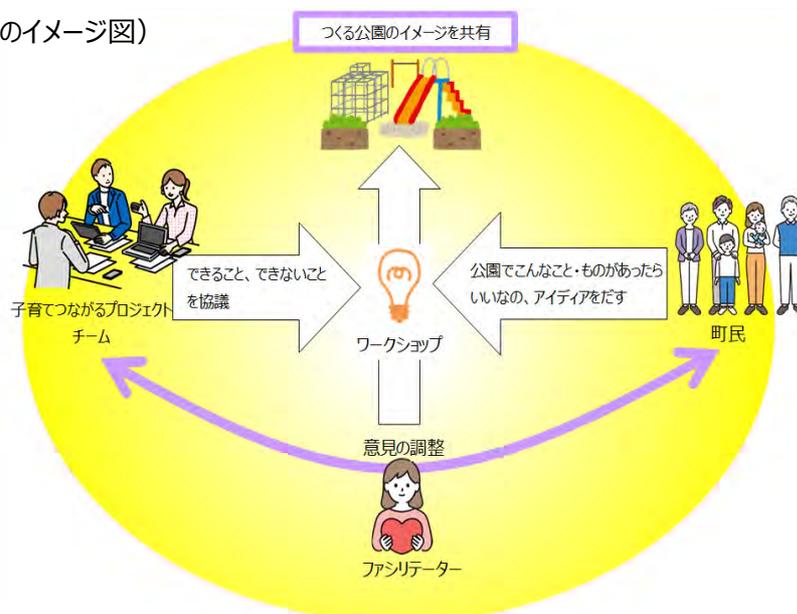


### 4-1. 子育てつながるプロジェクトチーム

庁内では、町の子育て・公園・町づくりに関する課による子育てつながるプロジェクトチーム（以下、プロジェクトチーム）を結成し、課の枠を超えて横断的に取り組みました。

プロジェクトチームでは、子育て世代や公園に係る現状・課題から公園の基本理念の設定を行い、ワークショップの内容について協議を進めました。ワークショップで挙げた意見については、チーム内で法律や条例上で実現度について確認し、実現が難しい案については代替手段の検討などを行いました。

(図 5：事業のイメージ図)



## 4-2. 公園づくりワークショップ

広報・チラシ等で公募を行い、応募された計 14 名の町民有志によるワークショップを計 4 回行いました。

【開催状況】

### 第 1 回目 思い描く

●日時	令和 4 年 7 月 31 日（日）午前 10 時から
●場所	レスポアール久山櫛ホール
●参加人数	14 名
●内容	(1) ものがたりづくり …久山・公園に関わるカードを使い、公園にまつわる物語をつくりアイスブレイクを実施。 (2) モノ・コトカードづくり …「公園にこんなものがあつたらいいな」や「公園でこんなことができたらいいな」をグループで自由に意見を出し合い、発表を行う。
●当日の様子	   
●成果	参加者が自由な意見を出し合い、活動や必要なものを分類しました。「モノ・コト・マップ」（図 6）を作成しました。マップを作成したことにより、考えられるリスクから検討が必要なテーマについて 6 つに絞りました。



## 第2回目 バランスを考える

●日時	令和4年10月10日（月・祝）午前10時から
●場所	レスポアール久山櫛ホール
●参加人数	12名
●内容	<p>第1回で挙げた意見から6つのテーマについてそれぞれのいいこと、リスク、改善案をグループで意見を出し合いまとめ発表を行う。（リスク・ベネフィット・アセスメント）</p> <p>【6つのテーマ】          ①焚き火 ②畑 ③イベント ④川遊び ⑤木登り ⑥コインランドリー</p>
●当日の様子	   
●成果	<p>検討が必要な6つのテーマについて「リスク」と「ベネフィット（効果）」をグループワークで意見を出し合い、元のアイデアから発想の転換を行うことで、実現可能な方法の検討、反対に実現が難しい事項について参加者とともに明確にしました。（表1）</p>

(表 1 : リスク・ベネフィット・アセスメント)

項目	いいこと	リスク	改善案
【焚き火】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・癒される、落ち着く</li> <li>・暖をとることができる</li> <li>・災害時でも使える</li> <li>・焼き芋など料理ができる →野外教室料理の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災、やけど</li> <li>・近隣への迷惑</li> <li>・消火管理、監視役が必要</li> <li>・薪の調達</li> <li>・物を捨てる人がいる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かまどをつくる、焚き火台を使う、石を囲む（ファイヤーピット）</li> <li>・（消火や薪割り、キャンプの基礎知識を学ぶ）講習会やイベントを開催する</li> <li>・見守り隊を発足</li> <li>・水場を近くに設置する</li> <li>・焚き火の時間を決めたり、風向き・強さが分かる風見鳥を設置する</li> <li>・役場職員と住民の交流会の場とする</li> <li>・近所の人を巻き込む</li> </ul>
【畑】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働作業が生まれる →年配の方に教えてもらう</li> <li>・食育を学ぶことができる</li> <li>・自分たちで育てた野菜なのでより美味しく、より感謝の気持ちで食べることができる</li> <li>・雑草対策</li> <li>・虫がくる →虫取りができる</li> <li>・四季を感じることができる</li> <li>・花壇をつくり花を植えたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水やり、管理責任</li> <li>・鳥獣被害</li> <li>・食に関する安全性の問題</li> <li>・作物の取り合いや盗難 →育ったものが誰のものか？</li> <li>・土壌の維持</li> <li>・台風などの災害対策は誰がする？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気柵の設置</li> <li>・畑のチームを結成し、イベント企画をつくる（焚火フェス、カレー試食会など）</li> <li>・駆除した動物を食べる</li> <li>・ポジティブな看板を立てる</li> <li>・循環型農業（パーマカルチャー）を取り入れる</li> <li>・自然を再認する（取られて当たり前、不作で当たり前）</li> <li>・区画を決め、貸し菜園とする</li> <li>・虫が寄り付かない花を植える</li> </ul>
【イベント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が集まり、世代間の交流が生まれ、賑わうことができる</li> <li>・いろんなイベントをすることで、子どもが喜ぶ</li> <li>・誇りに思える公園となり、愛着がわく</li> <li>・畑収穫祭：食育につながる</li> <li>・キッチンカーの日があればおいしい食べ物目当てにくるかも</li> <li>・みんなでラジオ体操をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰がするのか（民間？行政？）</li> <li>・維持費はどうするのか</li> <li>・人が来ない場合どうするか、集客をどう呼び込むか</li> <li>・ごみ問題や近隣住民からの騒音トラブルなどが起きる可能性がある</li> <li>・交通渋滞や駐車トラブルの可能性はある</li> <li>・トイレ問題</li> <li>・青空イベントで雨の場合どうするのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な世代にイベントをしてもらう</li> <li>・空間デザイン専攻の学生に協力してもらい運営を行う</li> <li>・理念を実践・テストする場とする</li> <li>・委託による管理運営をし、イベントについて企画をしてもらう</li> <li>・寄付を募る</li> <li>・維持費のかからないことから始める</li> <li>・「拾って帰る」を徹底する</li> <li>・分解するごみ箱の設置</li> <li>・男女兼用のトイレを設置する</li> <li>・イベント時のガードマン設置を必須とする</li> <li>・町民は歩いてケンコムポイントを貯める</li> </ul>

項目	いいこと	リスク	改善案
【川遊び】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏は気持ちいい、楽しい</li> <li>・危険が身につく</li> <li>・親子の触れ合いの場となる</li> <li>・子どもが夢中になり、夜疲れて寝てくれる</li> <li>・生き物や自然と触れることができる</li> <li>・噴水やビオトープを設置したら楽しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滑るや溺れるなど死に至る危険性が高い</li> <li>・掃除をしないと臭くなるなど衛生面（水質）に問題がある</li> <li>・ボウフラや外来魚、蛇などの生息地になる恐れがある。</li> <li>・他の町から人が殺到するかもしれない</li> <li>・川はどうやって作るか（水はどこから？などの問題）</li> <li>・汚れて帰らなければならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで見守る</li> <li>・どこが滑るか、流されやすいかレクチャーする</li> <li>・水底に丸い石しかいれない</li> <li>・生き物のワークショップをし、生き物にもハッピーな川の遊び方を考える</li> <li>・町の草刈りの日にみんなでする</li> <li>・川愛護デーがあるといい</li> <li>・来たらごみを拾って帰宅する約束をする</li> <li>・水質検査の業者を入れたり、大学の研究とのコラボレーションをする。</li> <li>・企業の研修としても使ってもらう</li> <li>・町外の人もOKの日をつくる</li> <li>・シャワーの設備を作る</li> <li>・井戸を掘る</li> <li>・学びの拠点とし、町をフィールドにする</li> <li>・バケツと釣竿を放課後子供に渡してブラックバスを釣らせる</li> </ul>
【木登り】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくりや体幹が育つ</li> <li>・チャレンジ精神が育つ</li> <li>・危険を察知する力が付く</li> <li>・ロープワークを学べる</li> <li>・落ち葉で遊ぶことができる</li> <li>・互いに危ないことであったり、リスクを教え合う場となり、コミュニティ形成につながる</li> <li>・譲り合いが生まれる</li> <li>・ツリーハウスが作れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落下、虫刺され、怪我の危険性が高い</li> <li>・台風での倒木の可能性がある</li> <li>・木の手入れを十分にしなければ腐食につながる。</li> <li>・管理人や見守りをしてくれる人が必要</li> <li>・30～40年後の管理はどうするか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち葉を集めてアート作品をつくる</li> <li>・木についてのワークショップをする</li> <li>・アンビシャスや小中学校と連携をし、学ぶ場として活用</li> <li>・自分で木を植栽し、管理を学ばせる</li> <li>・自然を活かした久山独自のカリキュラムを作る</li> <li>・土をやわらかくする（チップなど） →転倒しても痛くない</li> </ul>
【コインランドリー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの場所としても利用できる</li> <li>・子どもが遊んでいる間に家事ができる</li> <li>・荷物が減る</li> <li>・遠慮なく汚れることができ、手洗が必要なくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不特定多数の人が使う</li> <li>・環境汚染</li> <li>・初期費用及び維持管理のコストが莫大になる可能性がある</li> <li>・泥の付いた汚れ物が中心となるので、すぐに壊れるリスクが高い</li> <li>・管理人を必要とする</li> <li>・泥棒や変質者が出てくる恐れがある</li> <li>・場所の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コインランドリーではなく、洗い場を設ける</li> <li>・洗濯板を用意し、子どもと親がいっしょに洗う場所を設置する</li> <li>・環境に配慮した石鹸などを使う</li> <li>・公園を使った人だけが使えるように専用のコインを渡す</li> <li>・カフェを併設して管理人としても働いてもらう</li> <li>・井戸水のポンプで自分で洗う</li> <li>・町長室もしくは副町長室を隣に置く</li> <li>・交番を隣に置く</li> <li>・洗い方ワークショップ</li> </ul>

### 3回目 ソフト面から考える公園プラン

●日時	令和4年11月20日（日）午前10時から
●場所	久山町役場会議室+現地
●参加人数	13名
●内容	<p>・公園でやりたいこと、担いたい役割、プランの企画</p> <p>・現地の確認</p> <p>・プランから考えるゾーン配置の検討</p> <p>【企画されたプランの一覧】</p> <p>工作ワークショップ・青空絵本・写真撮影会・畑管理と収穫祭・音楽イベント・遊具の見守り・ツリーハウス・管理人・水遊び見守り・乳幼児ハイハイ見守り・木登りチャレンジ</p>
●当日の様子	   
●成果	<p>1・2回目のワークショップを受けて、公園で何がしたいか具体的なプランを企画し、現地を確認の上で、どの場所で企画したプランができるかを検討しました。そしてそのプランを基に、公園のゾーン配置の案を決めていきました。詳細は「5-1. ゾーニング」に提示しています。</p>

## 4回目 つながり続けよう

●日時	令和5年1月29日（日）午前10時から
●場所	ヘルスC&Cセンター
●参加人数	11名
●内容	<p>第3回で出されたアイデアが実現可能か実証実験を行うための次年度のイベントプログラムについて考える</p> <p>【企画されたプログラム】 ハイハイ体験・焚き火体験・音楽プログラム・工作ワークショップ・写真撮影会・木登り体験</p>
●当日の様子	   
●成果	<p>次年度公園予定地でのイベント開催の内容について案を取りまとめました。</p> <p>具体的な内容として、図7のような複数のプログラムを楽しめるイベントを開催することで意見がまとまりました。各プログラムには町民が主体的に関わり、行政はイベント全体のマネジメントを行う方向性及び、町民と行政で協働して運営できる仕組みづくりの必要性を共有しました。</p>

(図7：イベントのプログラム案)

イベントの名前 **ハイハイ体験**

内容

- ・もりもりの落ち葉の上をおもいっきりハイハイ
- ・競争の要素も入れたい(レース?)
- ・元・赤ちゃんも参加可
- ・おらほ・ドングリはみんな集めておらほのじょ、もりもりにしておく。

課題

- ・「汚れても良い格好で」を事前に知らせる
- ・ドングリなど、読んで合ったりしないよう、大人がしっかり見守る必要あり
- ・使用後は「お水で使ってもらえる...」

スケッチ

イベントの名前 **焚き火体験**

内容

- ・さつまいも
- ・マシュマロ
- ・火のこき体験
- ・杉葉 杉材等

課題

- ・火の取柄がわかりやすい
- ・火のこき体験
- ・道具の準備
- ・30分以内

スケッチ

イベントの名前 **音楽プログラム**

内容

- ・打楽器:ビン、カハ
- ・田舎の楽器 桑の笛等のステージ
- ・持ち込み楽器:ギター
- ・カホンで歌う、カホン作り

課題

- ・集めろ

スケッチ

イベントの名前 **工作ワークショップ**

内容

- ・落ち葉や木の葉で顔作り!
- ・落ち葉を集めてグロ! イベント!
- ・落ち葉の葉の集めてグロ!
- ・落ち葉アート

課題

- ・工具 絵の具などの道具の準備

スケッチ

イベントの名前 **写真撮影会**

内容

- ・落葉
- ・どんぐり
- ・ハイハイ赤ちゃん

課題

- ・インスタカメラの調達
- ・編集作業の機材の調達
- ・納品方法

スケッチ

イベントの名前 **木登り体験**

内容

- ・見守り → 地域の木(20分)に木登り体験
- ・木登り → 木登り(自然)や人工木登り体験
- ・道具は必要に応じて用意(安全ヘルメット)
- ・登りの目標設定(個人目標)と達成感の共有

課題

- ・「怪我」は、木登り → 木登り → 木登り
- ・親心「小さい子どもは、木登り体験」 → 木登り(地域)に木登り
- ・木登り体験は、木登り体験(木登り体験)
- ・木登り体験(木登り体験)

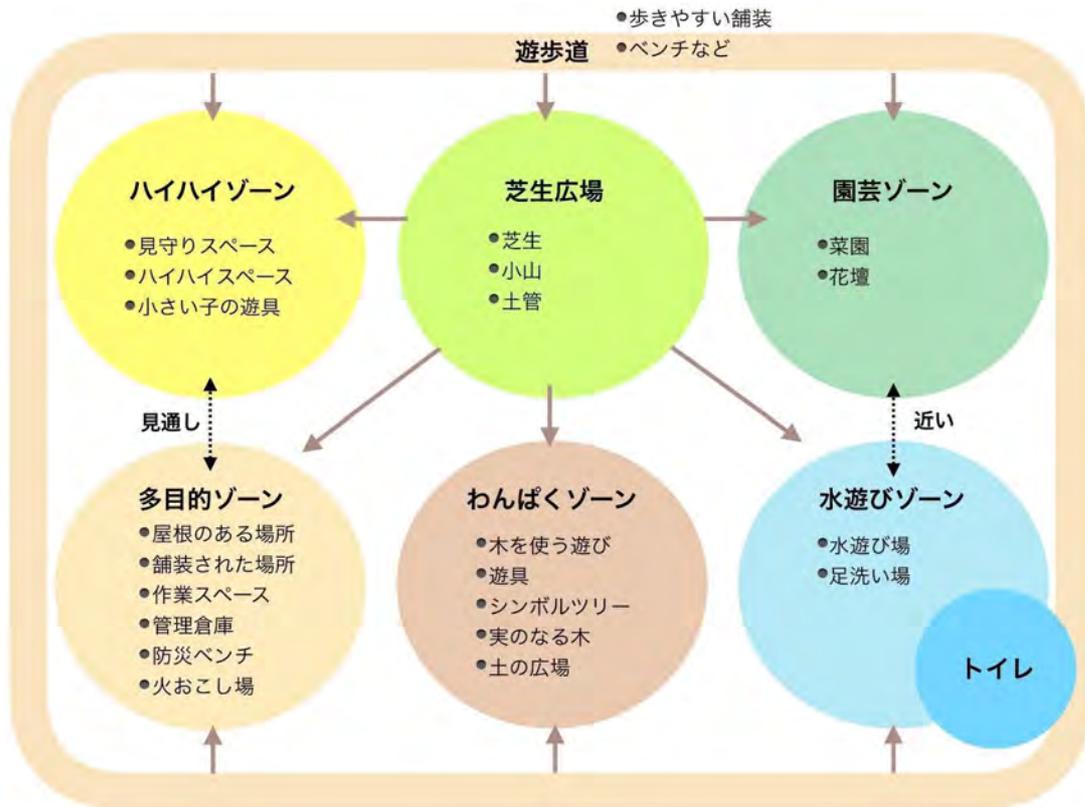
スケッチ

## 5. リニューアルの方向性

### 5-1. ゾーニング

ソフトボール場の整備を以下の6つのゾーンと、各ゾーンをつなぐ遊歩道による構成で計画します（図8）。各ゾーン内には、3つの理念を基に必要とされる設備と活動のための環境を整備していきます。

（図8：ゾーン関係図）



#### 【芝生広場】

公園の中心となるゾーン。多世代が多目的に使える広場とし、必要に応じ高低差や土管などの遊びの要素も検討します。求心的で公園のシンボルとなる場とします。

#### 【多目的ゾーン】

公園の管理と町民の活動の拠点となる舗装されたゾーン。屋根のある場所や作業スペース、管理倉庫、防災ベンチなどを設置し、様々なイベントやワークショップを行う場とします。火おこし場については、周辺環境を考慮し設置の有無や規模内容を検討します。

#### 【ハイハイゾーン】

乳幼児連れの方の安全に遊ぶことができるゾーン。乳幼児がハイハイでき、それを見守ることができる場所、幼児向けの遊具などを設置し、安心して子どもを遊ばせることができる場とします。

#### 【わんぱくゾーン】

幼児および学童が活発に外遊びをすることができるゾーン。複合遊具を設置し、既存樹木を使った冒険遊びや木の実などを使った自然遊びができる場とします。

#### 【水遊びゾーン】

水を利用した活動ができるゾーン。水遊び場、手洗い場、足洗い場、インクルーシブでユニバーサルなデザインに配慮したトイレなどを設置し、安全に水の利用ができる場とします。

#### 【園芸ゾーン】

野菜や花壇づくりが行えるゾーン。道具小屋やコンポストなどの設置も検討します。また、周辺住民へも良好な景観を提供できる場とします。

#### 【遊歩道】

各ゾーンをつなぐ遊歩道。ソフトボール場外周の既存遊歩道を生かし、6つのゾーンを巡る外周路を設けます。歩きやすい舗装を施し、景観の変化を楽しめる演出や休憩ベンチを設け、多世代が楽しめる場にします。

また、既存の敷地およびその周辺の状況を活かしながら以下の点に考慮し、図9のように配置されるよう計画を進めます。

- ・芝生広場は、ソフトボール場の中心に設置します。
- ・多目的スペースは、駐車場および道路からアクセスの良い位置とします。
- ・ハイハイゾーンは、ひさやま保育園からアクセスの良い位置とし、多目的スペースの屋根のある場所に隣接させます。
- ・水遊びゾーンは、計画予定地の北西側の既存下水道設備のある付近とし、わんぱくゾーンと園芸ゾーンの利用者が手洗いのために利用しやすい場とします。
- ・園芸ゾーンは、水やりの利便性を考慮し、水遊びゾーンに隣接させます。
- ・わんぱくゾーンは、ハイハイゾーンや作業スペースから切り離し、既存の遊具スペースおよび植栽が多く繁るエリアに設置します。

ただし現地調査の上、建設条件や費用面から必要が生じた場合は、適宜適切な配置・規模へ修正します。

(図9：ゾーン配置図)



## 5 - 2. 整備後の公園イメージ

整備後の公園では、「久山の自然を活かした」「関わりが生まれる」「みんなで見守る」の3つの理念に重きを置いた、様々な活動が展開されることを目指します。

この公園を整備することで、地区や世代を超えた様々な交流が生まれ、地域活動を展開する拠点としていきます。

同時に、安全管理やメンテナンスについても行政と町民が協力し、継続して行うことができる体制も整備していきます。

(図 10: 整備後の公園イメージ)

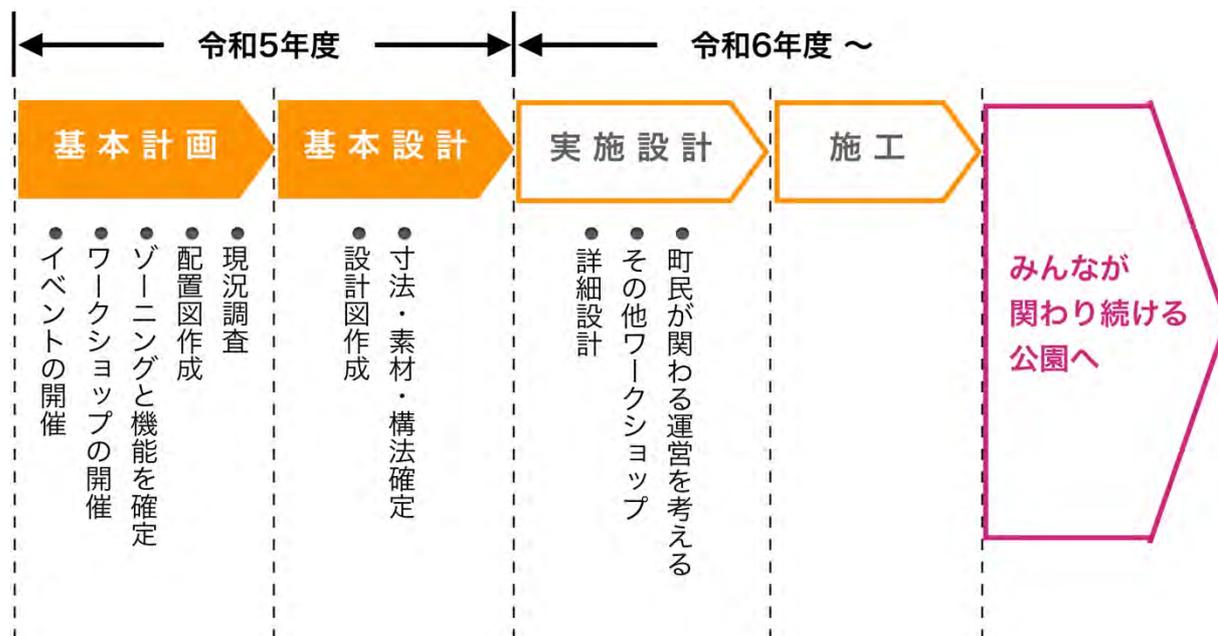


### 5-3. 今後の事業の進め方

本事業は、表2のとおり完成に向けて進めていきます。

この事業の特徴は、公園の空間デザインや施設などのハードの部分を整備するだけでなく、町民が公園づくりのプロセスと完成後の運営に積極的に関わることを目的に、ソフトの部分の整備も同時に進めることです。そのため、各工程において町民参加の機会を設けていきます。行政と町民が協力し計画から完成、そしてその後も関わり続ける公園となることを目指します。

(表2：進め方のイメージ)



## 6. 公園づくりワークショップを通しての参加者の感想

参加者からは、同世代との交流だけでなく、子育て世代、子育てが一段落した世代がそれぞれの意見を出し合うことで、刺激を受けたとの声が多くあり、イベントだけでなく、公園の運営の在り方や、整備後も継続して関わりたいという意見もありました。

### 【アンケートの主な意見】

- 子育てに真剣に向き合ってきた先輩方だからこそその意見が刺激的だった。
- 若い世代の方々と話し、脳の活力になった。
- 子どもたちが完成した公園で遊ぶ日が1日でも早く実現できればという思いで楽しみ。
- 継続して楽しめる公園・まちづくりに関わりたい。 など

## 7. おわりに

今回、計4回のワークショップを通じ、世代を超えた参加者同士や町民と行政のつながりが生まれました。

これからも公園に関わり続ける活動にしていくためには、イベントやワークショップなどを通じ、公園と関わりたいと思う町民をさらに増やしていくことの必要性が重要となります。今後も行政と町民が協働して行う事業を進めていきます。



公園づくりワークショップ 参加者一覧（敬称略）	子育てつながるプロジェクト 関係課一覧
阿部 高明	福祉課（子育て支援担当）※事務局
伊藤 真奈美	健康課（母子保健担当）
加瀬 志織	教育課（学校教育担当）
國寄 なつ紀	都市整備課（公園管理担当）
郷 利恵	経営デザイン課（地域づくり担当）
嶋井 紀博	ファシリテーター（敬称略）
仲村 敏也	遠藤 幹子
中山 淳平	（一般社団法人マザー・アーキテクチャ代表理事）
中山 百代	
乗田 典子	
實淵 彩	
安河内 知香	
吉用 賢治	